

# MIYASHITA PARK

MIYASHITA PARK

No. 13-066-2021作成

新築/外構・景観  
物販/飲食/ホテル/その他

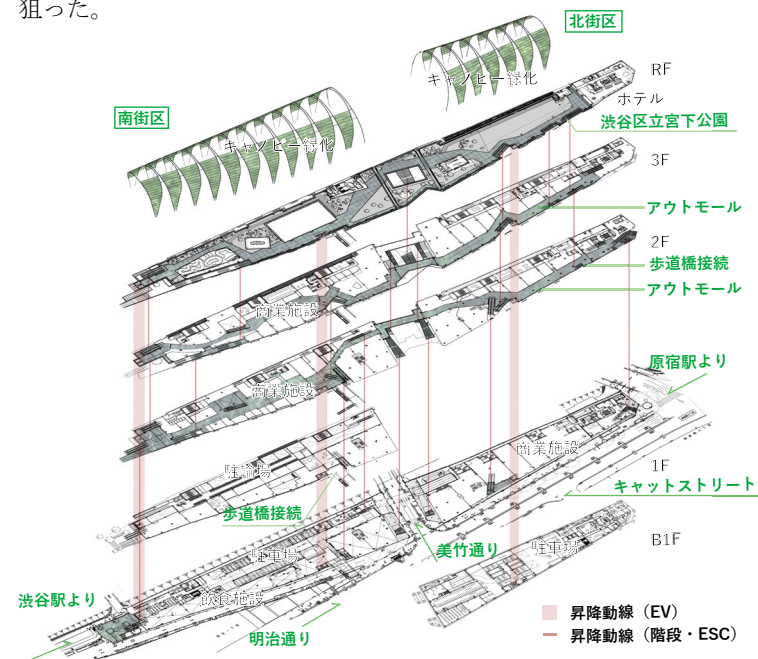
発注者	三井不動産株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION プロジェクトアーキテクト：日建設計		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	株式会社竹中工務店		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

## 立体都市公園と外部化した商業空間、包括するキャノピーによるグリーンインフラの実現

### 多様性を受け入れる緑の浮島

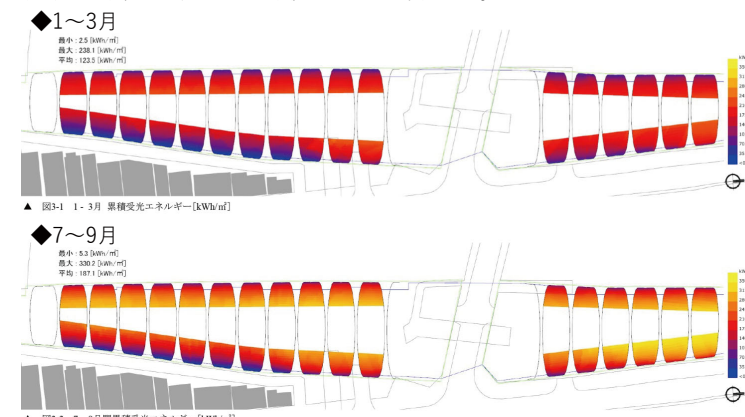
JRの線路と明治通り、渋谷川暗渠に挟まれた長さ約330mの公園を渋谷区で初めて立体都市公園制度を活用して地上17mに浮かせ、下3層に商業施設、原宿側端部にホテルを併設した。これらが融合し相乗効果を生みながら多種多様なヒト・モノ・コトが集まって複層的に交わる新しい形の都市公園、良質な都市のインフラとなることを目指した。

立体化し緑の浮島となった新たな公園は、街路からの動線、街路との繋がりを重視している。南北両端に大階段などのシンプルで視認性の高い縦動線を配置し、渋谷側、原宿側からのスムーズな動線を確保し、街区を分断する区道に象徴的な大階段を持つブリッジを架け、南北街区の回遊性を向上させた。また、歩道橋や街路と施設の結節点にも縦動線を配置し、来訪者が街路や商業施設、ホテルから自由に公園に至ることができる快適なアクセスを提供している。上空に浮かせた公園に緑陰を作る鉄のツインアーチ構造の緑の天蓋は、街区全体を包み込んで一体化させ、街路と公園を繋げるだけでなく、代々木公園や新宿御苑へと繋がる東京のグリーンインフラに寄与し、都市のアイコンとなることを狙った。

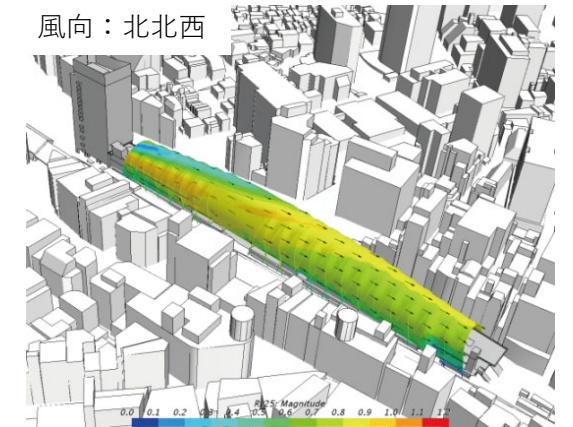


### 環境シミュレーションを活用した適材適所植栽選定

周辺建物情報と位置情報により日照・通風のシミュレーションを実施し、植物の選定を行った。屋上に配置した上段の壁面緑化プランターには、常緑で登はん能力が高いテイカカズラを中心に、落葉の樹種を混植することで、夏季の日射を遮り、冬季には十分な日光を取り入れる事で、四季を通じて屋外で過ごし易い環境を提供している。また、方位毎に4ゾーンに分け、日射条件に合う樹種をそれぞれ配置している。西面は日射遮蔽を高めるジャスミン類、東面下部は日照が得られないため耐陰性の強いヘデラを混植する等、外部からの緑視率向上に努めた。



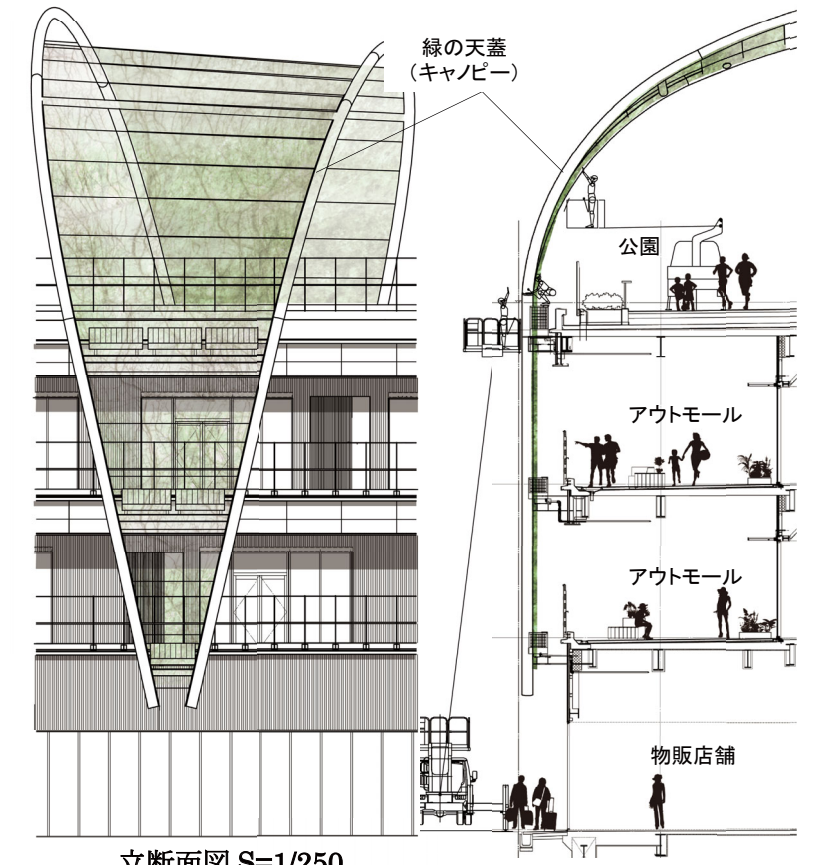
季節毎の日照シミュレーション



卓越風による通風シミュレーション

### 緑の天蓋による内外からの視認を可能にする都市型緑化

公園を地上から上空に配したため、外装には地上を歩く人々へ公園緑化を視認できる「緑の天蓋(キャノピー)」を設けた。公園の緑が街のアイコンになると共に、公園から人々が渋谷の街を風景として楽しめる設えとした。そのため、施設内側からも緑化を視認できるようプランターから登はんする植物を選定している。緑を介した視線の透過性とメンテナンス性に配慮し、アーチパイプの支柱にステンレスメッシュを設置している。

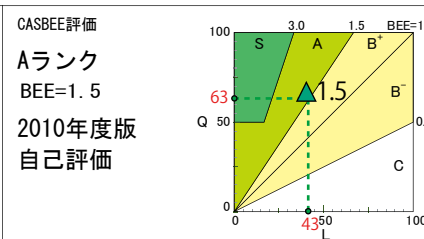


設計担当者

統括：美島康人／建築：関谷和則、町田巖、河野勝利、吉本晃一朗、楢垣政弘／構造：大嶋隆、伊藤英幸、八木毅、山崎和宏、吉田崇秀、設備／住吉力、星野宗久、入谷真樹  
インテリア：藤井洋介、奥谷将之、瀬川育未／外構：鈴木康平／プロジェクトアーキテクト：日建設計 三井祐介

建物データ	
所在地	東京都渋谷区
竣工年	2020年
敷地面積	(北街区) 4,515 m <sup>2</sup> (南街区) 6,225 m <sup>2</sup>
延床面積	(北街区) 29,764 m <sup>2</sup> (南街区) 16,193 m <sup>2</sup>
構造	S造一部RC造
階数	地下2階、地上18階、塔屋1階

省エネルギー性能	
BPI	(北街区) 1.00 % (南街区) 1.00 %
BEI	(北街区) 0.77 % (南街区) 0.92 %
LCCO <sub>2</sub> 削減	9 %



### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性 (商業共用部のスケルトン天井採用に伴う設備更新性の向上)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (特徴的な緑化天蓋キャノピーの連続するツインアーチ)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (東京の都市間における緑のネットワークを繋ぐことによる生物多様性への貢献)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (立体都市公園へ至る都市動線を歩道橋の接続や大階段によるアクセスしやすさの向上)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (商業空間の約70%を外部とすること空調負荷を軽減しランニングコストを低減)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (緑化の天蓋による公園への日陰の形成)